

分科会4

当事者の子育てを支えるための家族丸ごと支援

出演者： 横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）
蔭山正子（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）
前田直（杏林大学保健学部作業療法学科、配偶者の会代表）
猫柳ゆーぎ・中村俊輔（横浜ピアスタッフ）
山本あきこ・荻野律（こどもびあ）

精神障がい者の結婚、子育ては当たり前時代となりつつあります。しかし、子育てをする当事者、配偶者、子どもの実態は知られていません。この分科会では、地域のサポートを受けながら、子育てをしている当事者、配偶者・子どもの立場の家族に、それぞれの体験とピアサポートについて語って頂きました。その上で、当事者にとっての結婚、子育ての意味を考え、家族丸ごと支援のあり方を探りました。

●発表の内容

蔭山氏は行政保健師という支援者の立場で、妊娠期から子育て期まで切れ目のない育児支援の必要性を話しました。横山は、子どもたちの生活実態、大人になっても抱える生きづらさ、子ども版の「家族による家族学習会」や配偶者会と連携した若者支援など、子どもたちのピア活動の実際を報告しました。

子育てをされている当事者のご夫婦が、親や地域のサポートを受けながらの子育ての体験を語り、今は「子どもは心の大きな支え、柱である」と話しました。

配偶者の立場の前田氏は、配偶者の「孤立」「経済的な困窮」などの生活実態、「精神に障害のある人の配偶者・パートナー支援を考える会」の活動を報告しました。配偶者支援と共に、同伴の子ども保育、未成年の子どもグループ、当事者グループなど、家族丸ごと支援を試みています。

こどもびあ（精神疾患の親を持つ子どもの会）の山本さんは、親の発病による困難や辛さとともに、精神科訪問看護師という支援者になって、家族ではないからこそできることが多いと体験を語りました。同じ立場の家族に出会って救われ、今後は、こどもびあで子ども支援をしていきたいと述べました。

1. 当事者の結婚と子育て支援（蔭山正子）
2. 子どもの困難とピアサポートの可能性（横山恵子）
3. 子育てをする当事者の体験（猫柳ゆーぎ・中村俊輔）
4. 精神に障害のある人の配偶者・パートナーへの支援（前田直）
5. 精神障がいを持つ親に育てられた子どもの体験（山本あきこ）

●グループワーク・まとめ

後半は、当事者、親・配偶者・子どもの立場の家族の参加者、それぞれ交流ができるようにグループを作りました。支援者は関心のあるグループの周りで話しを聞きました。最後に、グループごとに感想が話されました。

同じ立場同士で話せて嬉しかった、安心して話せる場が地域に必要である等の感想がありました。また、支援者からは、体験が心に響き、家族の困難を知ることができた、家族を丸ごと支援する必要性を痛感した、等の感想がありました。

＜＜横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）＞＞